

近現代史(25) アジア諸地域の動揺⑤ 東アジア【2】「東アジアの近代化」

【国内動乱と近代化の始動】

(1) 太平天国の乱

① 民衆の不満と結社の結成

- ・アヘン戦争後 重税による窮乏化+清朝統治に対する不安感

↓

- ・民衆は[1. 結社]をつくってたすけあい、生活を守ろうとする。
 - ▶ [2. 白蓮教]系の諸団体をはじめとする宗教的結社
 - ▶ 「3. 反清復明」を旗印とする政治的結社 (運輸労働者が中心。華中・華南に勢力を広げる)

② 太平天国の乱

- ・ a) 社会的背景 … 各結社が反乱を起こす!!
 - ⇒ 華北の農民を中心とする[4. 捻軍]、雲南イスラーム教徒、西南ミャオ族
- ・ b) 太平天国の乱の勃発
 - ⇒ 各結社の反乱の最大のものが「太平天国の乱」(※辮髪をやめたので「5. 長髪賊」と呼ばれる)
 - ▶ 指導者 [6. 洪秀全]
 - 広東でキリスト教に接し、自らをキリストの弟と称して政治結社[7. 拜上帝会]結成。
 - 1851年に広西で挙兵し[8. 太平天国]を建設。
 - 1853年、南京を占領して首都とし、[9. 天京]と名付ける。
 - ▶ 太平天国の政策
 - 「10. 滅満興漢」をかかげて清朝の打倒を目指す
 - アヘン吸引や[11. 纏足]などの悪習慣の廃止。
 - [12. 天朝田畝制度]…男女の別なく土地を均分し、郷村組織を作って、相互扶助的機能を持たせた。

(2) 太平天国の乱の鎮圧

① 太平天国天京政府 → 内部争いで混乱

② [13. 郷勇]の活躍

- ・ 漢人官僚が郷里で組織した義勇軍が太平軍をやぶる。[14. 曾國藩]の湘軍、[15. 李鴻章]の淮軍。

③ 西洋諸国の対応

- ・ 当初は、太平天国に同情的だったが・・・アロー戦争の講和条約である[16. 北京条約]で清朝に要求をのませると、清朝擁護に転じる。
 - ↓
 - ・ ウォードやゴードンの率いる[17. 常勝軍]が清軍に協力。1864年に天京は陥落。太平天国滅亡。
 - ↓
 - ・ 清朝中央や軍隊の無力ぶりを明るみにだし、漢人官僚が勢力をのばすきっかけとなる。

(3)「同治の中興」と洋務運動

①[18. 同治の中興]…[19. 同治帝]の治世が表面的に内政・外交の安定期であったことによる呼称。太平天国の乱や捻軍の乱が平定され、漢人官僚による洋務運動が推進された時期にあっていた。

②[20. 洋務運動] …1860年頃から展開された西洋の軍事技術などを導入して富国強兵をはかろうとした近代化運動のこと。

▶中心人物…太平天国の乱の平定に活躍した漢人官僚たち。

□[21. 曾国藩](1811～1872)…太平天国討伐の湘軍を率いる。洋務運動の中心人物

□[22. 李鴻章](1823～1901)…曾国藩の命を受けて安徽省で淮軍を組織し、太平天国や捻軍を鎮圧。最高実力者として内政・外政を担当した。

□[23. 左宗棠](1812～1885)…曾国藩のもとで太平天国の鎮圧に活躍。回教徒の乱を鎮圧して新疆を回復。ロシアとの国境紛争であるイリ条約にかかわる。清仏戦争時に病没。

▶主な事業…兵器工場、紡績工場、汽船会社の設立、鉱山開発、電信事業など。

③[24. 中体西洋] …洋務運動の基本的精神。儒学を中心とする中国の伝統的な学問を基礎として、西洋の学問・技術を利用するという考え。

※西洋の思想や社会制度を導入しようとするものではない。

↓

政治体制の改革や中国社会全体の近代化は目指さず、西洋近代技術の表面的な模倣に始終したので、清仏戦争・日清戦争に敗北して挫折した。

【明治維新】

(1)日本の国民国家建設

・1853 [25. ペリー]来航 アメリカ艦隊が浦賀に来航

↓ →アメリカ艦隊の浦賀来航。開国か攘夷かの対立で老中[26. 阿部正弘]が開国

・1854 [27. 日米和親条約]で下田・函館の2港を開港。

↓ →アメリカ領事[28. ハリス]の圧力。アロー戦争の経過に強い衝撃を受け、大老井伊直弼が対応

・1858 [29. 日米修好通商条約]

↓ { 領事裁判権を認め、関税自主権を喪失する不平等条約だが敗戦によるのではないので、賠償金支払いや
領土の割譲がなく、アヘンも禁輸された。

・1867 [30. 大政奉還] ⇒ 1868 明治新政府の成立

↓ →富国強兵・殖産興業に励む

・1889 [31. 大日本帝国憲法]の発布 → 1890 二院制議会の開設

→近代的国家体制の確立！

(2)主権国家体制日本と冊封体制清王朝の対立 ～琉球・台湾・朝鮮は清王朝の属国～

①[32. 樺太・千島交換条約]…1855年の日露和親条約で千島列島の択捉島以南を日本領、ウルップ島以北をロシア領、樺太を両国民雑居の地と定めていたが、1875年のこの条約で全樺太をロシア領、全千島を日本領と定めた。

②[33. 琉球処分]…琉球は日本(薩摩藩)と清王朝に両属していたが、日本は1872年に沖縄藩を置き、1875年に軍隊を送って沖縄県とした。清朝は宗主権を主張してこれに強く抗議したが、日清戦争により日本の主張通りに帰結した。

③[34. 台湾出兵]…台湾に漂着した琉球民が原住民に殺されたが、清国は台湾の先住民を「化外の民」として、漂流民保護の責任を取ろうとしなかったため、日本軍は台湾に出兵した。台湾先住民は清朝政府の支配下にあるのか、という点が問題となった。主権国家の要素は主権・領域・国民であるため。